

彦七を襲った鬼女が潜む地蔵堂 大森彦七伝説の 魔住ヶ窪



藤棚に囲まれた地蔵堂。堂の中には地蔵が1体祭られている



鬼女が彦七を襲う迫力ある絵馬。
砥部町出身の矢野翠堂が描いた



地蔵堂に奉納された絵馬

伊予の豪族・大森彦七にまつわる地蔵堂。大森彦七は、建武3年(1336)に湊川の戦いで楠木正成を切腹に追いやつたとされる人物として知られる。

この大森彦七を襲ったという鬼女伝説が重光地区に残る。正成を追いついた手柄として、足利尊氏から領地をもらい、松前の金蓮寺にて

地図 P12 A1

砥部町重光465
☎089-962-5952
(砥部町教育委員会) ※スタンプ台は
地蔵堂正面左側



3～4は700m

族で祝いの猿楽を催すことになった。彦七は松前に向かう途中、矢取川で出会った美女に心ひかれて猿楽に誘った。足元がおぼつかないので、美女を背負い歩いていると、美女はにわかに鬼女になり、彦七に襲いかかった。太刀を抜いた家来が近づくと鬼女は消え去ったという。

また猿楽からの帰り、彦七は矢取川で道に迷っていた美女を背負い、矢取川を渡っていたとき、水面に映った鬼女の姿を見て、剣を抜き逃れたとも伝えられる。鬼女は楠木正成の怨霊とも、楠木公の娘千早姫が鬼面をつけたものともいわれる。

地蔵堂はその怨霊を慰め、供養するために造られた。

伝説は、明治になって福地桜痴が歌舞伎に劇化し、長く語り継がれている。

この地は鬼女が待ち伏せていたとされることから「魔住ヶ窪」と名づけられた。

陶街道
五十三次

五

赤坂泉

桜に包まれた透き通る泉



重信川の伏流水がこんこんと湧き出る泉

赤坂泉は、重信川の堤防沿いにある幅約10m、長さ約520mの泉で、別名「鏡泉」と呼ばれる。このあたりは昔、早魃が起こり、たびたび水をめぐる

争いが起こっていた。明和8年(1771)に大早魃が起こり、堰を切った重信川下手の5カ村と上手の麻生村とが、矢取川の河原で大乱闘となった。この事件の責任を身に負い死罪となつたうちの一人が、下麻生村の組頭窪田兵右衛門で、義民として伝えられている。

天明元年(1781)に工事を始め752人の労力を要した難事業の末、寛政5年(1793)に泉は完成し、農業用水が満たされた。

昭和33年、水が不要なときには下手の水門から重信川に放流し、必要なときには

重信川から引きこむように、樋管が作られた。樋管の改修を終えた記念の碑が立つ。

赤坂泉は映画でも話題になった陽光桜の名所としても有名。オイカワやカワムツなどの魚が泳いでいる様子が見られる。公園としてあずまややベンチなどが整備されており、堤防沿いや泉の周りを散歩するのもいい。ここは重信川自転車道の拠点にもなっている。

地図 P12 B1

砥部町重光135
☎089-962-2323
(砥部町役場)
P10台 ※スタンプ台はあずまや内



4 ~ 5 は1.2km

バランスよく配置された数々の堂宇

理正院と麻生の金毘羅さん

勝本陣

地図 P12 B2

砥部町麻生393
☎089-956-4776
P30台 ※スタンプ
台は納経所左手の
門を入った所



山の中腹まで広がる敷地に堂宇がバランスよく配置され端正な佇まいを見せる。
大同2年(807)、空海

が四国を訪れた際に、国司と相談して堂宇を建て、大日如来座像を安置したという寺院。伊予十三仏霊場第十二番、新四国曼陀羅霊場四十七番でもある。

回廊を抜けると立派な楼門が迎えてくれる。楼門は焼失していたものを、寛永元年(1624)に松山城主加藤嘉明が再建したもの。

楼の彫刻は竹田番匠友弘

回廊の横には池がある



見事な入母屋造の屋根の楼門



本堂の左横から金毘羅大権現に向かう石段

「麻生の金毘羅さん」として親しまれている。文治3年(1187)、河野伊予介通

の作で、左右には鎌倉時代、伊予運慶の作といわれる高さ2mの木造金剛力士立像が安置されている。楼門と金剛力士立像、本堂の大日如来座像と大師堂の弘法大師肖像は昭和57年に町指定の有形文化財に指定された。

左手にある金毘羅大権現は「麻生の金毘羅さん」として親しまれている。文治3年(1187)、河野伊予介通の作で、左右には鎌倉時代、伊予運慶の作といわれる高さ2mの木造金剛力士立像が安置されている。楼門と金剛力士立像、本堂の大日如来座像と大師堂の弘法大師肖像は昭和57年に町指定の有形文化財に指定された。



5 ~ 6 は1.6km

25年に1度開帳されるという金毘羅大権現

遊歩道に沿って古代の里を探索する

水満田古墳公園

みかん畑が広がる金比羅山を、西の谷上池に沿って登ると、頂上に緑に囲まれた遊歩道がある。ここには、27基の古墳が点在し、古代の生活に思いをはせながら歩くことができる。

水満田古墳は、古墳時代後期(6世紀終わり〜7世紀)のもので、横穴式石室をもつ円墳や方墳だ。

一部を展示している。現在は、2・3号古墳の外観が見学できる。

遊歩道に沿って、古代人の暮らしを知る実寸大の竪穴式住居や物見やぐら、石棺、高床式倉庫が復元されている。また出土した穴窯を復元した「埴輪窯」もある。一帯の金毘羅山公園は桜の名所として有名。

地図 P12 A2

砥部町麻生425
☎089-962-5952
(砥部町教育委員会)
●P20台 ※スタンプ台は西の谷上池の土手をわたった正面



6〜7 は700m



眼下の景色を一望する物見やぐら



古墳が点在する



山道を歩くのでハイキング気分も



本格的に復元された竪穴式住居

スポーツ施設と古代の森が同居する

愛媛県総合運動公園

えひめけんそうごううんどうこうえん

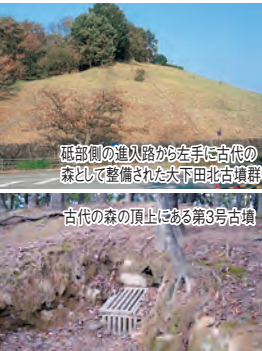
昭和55年開園のスポーツ施設を中心とする大規模な公園。砥部町と松山市にまたがる高台に、ニンジニアスタジアム、体育館、球技場、テニスコートなどの施設がそろい、サッカー「愛媛FC」の

ホームグラウンドでもある。愛媛FCのホームゲームでは、県内市町の特産品販売や情報発信などを行う「マツチンティーマッチタウン」で賑わう。

敷地内には、古墳時代後期の歴史的足跡を残す大下田古墳群があり、標高60～110mの丘陵上に古墳が点在している。現在第1号、2号、3号墳の石室が残されている。直刀、玉類、須恵器などが出土し、一部は砥部



愛媛県最大規模のスポーツ施設。2017年開催のえひめ国体・えひめ大会(全国障害者スポーツ大会)のメイン会場に



砥部側の進入路から左手に古代の森として整備された大下田北古墳群

古代の森の頂上にある第3号古墳

子持台付壺は高さ25cm、直径30cm余りの器台の上に、7個の蓋付杯が置かれる



民俗博物館に収蔵されている。

町中央公民館に展示されている。第1号墳からは「子持台付壺」がほぼ完全な形で出土し、千葉県の国立歴史



7～8は2.5km

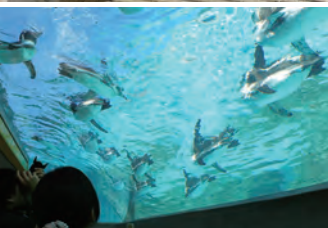
地図 P12 C2

松山市上野町乙46
☎089-963-3211(愛媛県総合運動公園管理事務所) 9時～21時
②2200台(有料300円、30分以内は無料。砥部側と松山側の両方にあり) ※スタンプ台はニンジニアスタジアムのスタブの下の公園管理事務所入口横





日本で唯一見られるアフリカゾウの家族

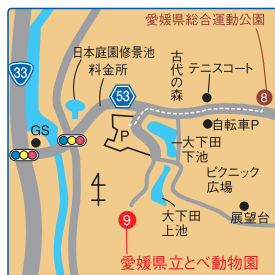


下からペンギンを観察できる

動物園の正面ゲートを入り、右手に進むとある「とべの館」は、かわいい動物のオリジナルグッズや砥部焼を中心とした売店だ。店内には、町内にある窯元の作品も展示している。

積極的。

くした開放的なパノラマ展示で、のびのびした動物の様子が見られる。また、国内初の人工哺育としてホツキョクグマやアフリカゾウが注目され話題をあつめた。動物本来の能力を見せる「行動展示」や「夜の動物園」(夏と秋の週末)など新たな取り組みにも



8～9 は1.1km(駐車場から入口までの500m含む)

陶街道
五十三次

九

愛媛県立とべ動物園

世界中の動物と出会い触れ合う

え ひ め け ん り つ
どうぶつえん

地図 P12 B3

砥部町上原町240
☎089-962-6000(とべ動物園)
☎089-962-2323(砥部町役場)
🕒9時～17時(入園16時30分まで)
🌞月曜(祝日の場合は開園)
入園料/大人460円、小中高生・65歳以上(要証明書)100円
🅐2000台(有料/普通車300円)
※スタンプ台は動物園入口ゲート横



陶街道
五十三次

+

彦七の末路を語る塔

大森彦七供養塔

おおもりのひこしち
くようとう



塔身の高さ91cm、台石は高さ70cm余りある

旧国道33号（現町道）から東の小道に入ると、大森彦七を供養する塔がひっそりと立つ。太平記によると、彦七は建武3年（1336）に湊川の戦いで北朝軍に参軍し、南朝の楠木正成を切腹させ手柄を立てたが、南朝正統論の影響を受け悪人とみなされた。

故郷の砥部に帰った後、正成と



その娘千早姫の怨霊に悩まされたといわれる。彦七の功を称えて、江戸時代半ばに田中権内によって建立された供養塔は、塔身が3つに折れ、補修されている。正面には「長盛院殿大森彦七居士神儀」と刻まれているが、今では風化がひど

く判読できないほどだ。塔身は、あたかも彦七の末路を物語っているようである。

地図 P12 B3

砥部町宮内 1424-1
☎ 089-962-5952
(砥部町教育委員会)
※スタンプ台は供養塔正面右側



9～10は1.0km

砥部焼に彩られた館 陶壁画と手水鉢 (砥部焼陶芸館)



女性用の手水鉢。男性・女性用合わせて7つの手水鉢がある



大きく模様を見えるようにした「牡丹」(左) 水面に椿が浮かぶ様子を表現した「浮き椿」(右)



◀西側壁面にある「しまなみ海道四橋」

窯元たちが出資して作った砥部焼陶芸館では、伝統的技法を生かした手作りの良さを感じてもらおうとトイレに砥部焼を施し、訪れる人の目を楽しませている。

外壁には、大輪の花が描かれた「牡丹」、赤い発

【手水鉢の作者一覧】

〈成形・焼成〉★八瑞窯・白湯八洲彦さん 〈絵付け〉★金城窯・平田年子さん「コスモス」★竹山窯・初代中元竹山さん「梅」★広谷窯・広谷幸雄さん「魚」★南光窯・米田南光さん「春蘭・椿」★きよし窯・山田ひろみさん「アレンジ模様」★ひと窯・井上仁司さん「牡丹文様」

【陶壁画の作者一覧】

〈絵付け〉★南光窯・米田南光さん「牡丹」★五松園窯・酒井芳人さん「浮き椿」★緑光窯・亀田緑光さん「しまなみ海道四橋」

手描きの染付を施した陶芸館の柱。川や草花、鳥や魚など砥部の自然を表現



地図 P12 B3

砥部町宮内83
☎089-962-3900
🕒8時30分～18時(2階は～17時)
♿1/1
💰絵付け600円～
📄150台 ※スタンプ台は本館と陶壁画の間



10～11は300m

色が特徴的な「椿」、今治側からみた「しまなみ海道四橋」の陶壁画が飾られる。手水鉢が砥部焼というのもうれしい。6人の陶工によつて絵付けされ、陶工たちの特色が生かされた絵柄が楽しめる。利用者に、清潔感やさわやかな気持ちを持つてもらおうと、絵柄や色使いなどを工夫したという。

館内では現在50軒を超えるの窯元の作品を販売し、絵付けや手びねりの体験もできる。

ミュゼ里山房

アートの香りを穏やかに楽しむ



六角形のホールにジャンルを越えたアートが広がる



六角形の赤い建物が目印

平成9年にオープンしたギャラリ、工房、アトリエ、カフェを複合した施設。砥部の里からアートを発信しアーティストや地域の人たちの交流拠点として芸術を通じて人々の輪が広がっている。1階には、やさ

しい光の差すベンチで炭焼コーヒーや紅茶が味わえるカフェや、里山房&トベオーベルジュリゾートの焼き物の作品をおくギャラリーショップがある。2階のイベントホールでは、地域では見られない作品をと、次々に県内外のアーティストの企画展を開催している。アート展のほか、アートシンポジウムや世界各地の民族音楽などのミニコンサートを開催することも。ア



地図 P12 B3

砥部町宮内980
☎089-962-3208
🕒10時～18時
🌳木曜
🅐4台 ※スタンプ台は入口横



11～12は600m

テイストと聴衆が身近に触れ合える空間となっている。陶芸や絵画の教室も開かれる。

主人の矢野徹志さん(里山人は、画家陶芸家として活躍するかたわらアートの里づくり会議を主宰した後、平成16年2月に設立されたNPO法人とベ・TOBEのまちづくり活動に参加している。「町全体がアートの発信地となれば」と抱負を語る。



陶街道
五十三次

十三

遊びのパラダイスで楽しもう

えひめこどもの城

豊かな自然に囲まれたえひめこどもの城は、県内外から多く子どもが訪れる人気スポット。
約35万㎡もの敷地内は、1日中たっぷり遊べる5つの

ゾーンに分かれている。こどものまちゾーンにあるメイン施設の「あいあい児童館」は、ヨーロッパの城を思わせるような建物で、巨大遊具や迷路などがあり、建物自体が

遊び場となっている。

館内には、売店やコインロッカーのほか、トイレや休憩所が設置してあるので、大人も子どもも安心して遊べるのがうれしい。

その他、芝生が広がるイベント広場ゾーン、陶芸や木工の創作が体験できる創造の丘ゾーン、ボブスレー

やサイクルモノレールなどの乗り物が楽しめる冒険の丘ゾーン、自然の中を散策するふれあいの森ゾーンがある。目的のゾーンへは各ゾーンを結ぶロードトレインが便利。

地図 P12 C3

松山市西野町乙108-1

☎089-963-3300

●9時～17時(夏休み期間中は～18時) ●水曜(祝日の場合は翌日)、春・夏・冬休み期間中は無休、12/27～1/1 入園料無料 ●500台(有料/普通車300円。砥部側と松山側の両方にあり) ※スタンプ台は砥部町側入口



12～13 は800m



巨大な遊び場の「あいあい児童館」



通谷池(とりたにいけ)ではボートにも乗れる



毎週火曜日に行われるイベント「みんないっしょにピーカパー」。パルーンで遊ぶ親子たち

陶街道
五十三次

十四

互いに寄り添う友愛の心 中央公民館の 友愛の像

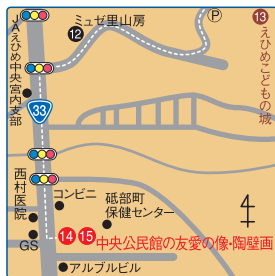
昭和62年、砥部ライオンズクラブが、創立5周年記念事業として、「地域の子どもの豊かな心を育むお手伝い」という、モットーを掲げたモニュメント「友愛の像」を寄贈した。白と藍のこ

ントラストと、曲線のフォルムが印象的な作品。デザインは五松園窯の酒井芳人さんで、成形は大西陶芸の大西光さん、絵付けは竹山窯の初代中元竹山さん1910、2000年赤手がけた。



作品の高さは2m余りある

焼成を行ったのは八瑞窯の白濁八洲彦さん。大きな作品なので、一般作品の成形焼成時間に比べ、倍の時間を費やし、上下を別々に焼いて継ぎ合わせている。
そして抱き合わせた形になるよう設置された。台座はミユゼ里山房の矢野徹志さんが手がけた。



13～14 は1.4 km

地図 P12 B4

砥部町室内1369
☎089-962-4822
(砥部町中央公民館)
休日曜・祝日、12/29
～1/3 40台
※スタンプ台は友愛の像横



陶街道
五十三次

十五

巨大な陶壁画を眺めよう 中央公民館の 陶壁画



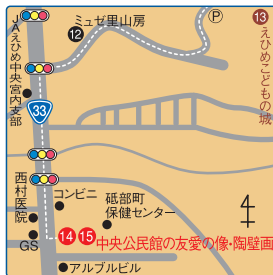
高さ約4.8m、正面壁画の左右は約7.4m

昭和53年、砥部町中央公民館の建設時に設置された陶壁画。デザインと絵付けは、春秋窯の工藤省治さんで、焼成は梅野精陶所で行われた。

陶板をいくつも集めて形づくっている巨大な作品で、絵付けは10日間か

けて行われ、焼成は陶板の数が多いため2回に分けて行われたという。

絵柄は、砥部の原風景をイメージし、山川、鳥、魚、樹木、みかんが盛り込まれている。陶壁画から描かれているものを探し出してみるのが楽しい。



14～15はすぐ横

地図 P12 B4

砥部町宮内1369
☎089-962-4822
(砥部町中央公民館)
🕒日曜・祝日・12/29
～1/3 🕒40台
※スタンプ台は陶壁画前





井上正夫資料室には、生涯を紹介した年表や出演シーンの写真、バネル、演劇の雑誌や台本、友人に送った絵手紙などを展示

「日本現代演劇の父」

井上 正夫



平成13年に開館した文化会館の正面

砥部町文化会館入口には、井上正夫の胸像がある。この胸像は、昭和60年井上正夫会によって砥部町中央公民館に設置文化会館の開館に合わ

せて現在地に移転されたもの。西条市出身で彫刻家の伊藤五百亀が製作、劇作家の北條秀司が題字を手がけた。
会館1階の郷土資料展示室では、砥部の歴史や自然を紹介するコーナーと砥部町の先覚者コーナー、井上正夫資料室を設けている。

陶街道
五十三次

十七

文化会館の 井上正夫胸像と資料室

演劇を愛した井上正夫の生涯を知る



ロビーには一対の砥部焼の作品「とぶ鳥」を展示



会館入口にある井上正夫の胸像



16～17は50m

地図 P12 B4

砥部町宮内1410
☎089-962-7000
●井上正夫資料室
9時～18時(鑑賞無料)
⑬毎月最終平日(火曜の場合は月曜)、12/28～1/4
⑭50台 ※スタンプ台は会館正面入口横



個性あふれる絵の数々 砥部町陶街道ゆとり公園 アリーナへの道陶板

子どもからお年寄りまで
運動や休養など幅広く楽

しめる砥部町陶街道ゆとり
公園。アリーナへの道の両脇

には、スポーツをイメージ
した絵や、かわいいうき
ラクターが描かれた20
個の陶板が並び、砥部
焼の里らしいアイデア
と評判だ。このアイデ
アは、当時活動していた
アートの里づくり会議
(代表・矢野徹志さん)



アリーナへの道に立つ陶板



手作りのぬくもりが伝わってくる

体育館アリーナや多目的
広場、テニスコートなどがあり、
スポーツや散策を楽しむ人
が訪れている。わんぱく広場の
乗り物や、あすなろ山のロー
ラーすべり台は子どもに人
気。4月に行われる砥部焼ま
つりの会場にもなっている。

のメンバーがデザインを提案
し、砥部焼協同組合が焼成
を担当。平成5年の開園に
合わせて設置された。



17～18は600m

地図 P12 C4

砥部町千足400
☎089-962-2323
(砥部町役場)
☎089-962-4600
(管理事務所)
🕒9時～22時 📍
176台(大型10台)
※スタンプ台は公
園管理棟チケット販
売窓口

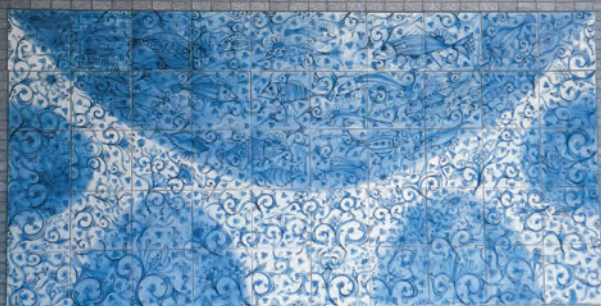


陶街道
五十三次

十九

とべ温泉湯砥里館の 陶壁画

ゆとりを感じながらくつろぐ



ユートピアを演出する「砥部更紗文」。上が女湯、下が男湯で、女湯の文様には子持ち魚が多く描かれている



駐車場にある坂村真民さんの
砥部温泉祝歌の碑



◀ 外観



浴室で陶壁画をゆつたり眺める

とべ温泉湯砥里館では、浴室に飾られた陶壁画を眺めながらゆつくり入浴できる。この陶壁画は、春秋窯の工藤省治さんがデザイン・絵付けをした「砥部更紗文」(縦1.5m、横3m)だ。あらゆる生物が一体になったインドの更紗模様をモチーフに、砥部の山や、瀬戸内海の波をイメージしている。眺めれば眺めるほど、デザインの奥深さを感じられる作品だ。

とべ温泉湯砥里館の湯は、

肌をすべすべにさせる「美人の湯」として人気。ガラス張りの浴室や休憩室からは山里の風景を望め、湯上がりには飲食コーナーでくつろぎたい。

地図 P12 C4

砥部町宮内1902-3
☎089-962-7200
🕒10時～22時(21時30分札止め) 🗓毎月1、20日(1/4、土・日曜、祝日の場合は翌日)、温泉温泉利用料金/大人500円、子ども350円(6歳未満無料)、65歳以上400円 🅞50台
※スタンプ台は玄関横



18～19は600m

陶街道
五十三次

お休み処

千足休憩所

国道モニュメントも整備
せんだくきゆうけいしよ



休憩所全景



壁にある陶街道五十三次を描いた陶板



陶郷を一望できる

国道33号～379号
と五十三次の位置
を示す舗装



平成28年に拡張された
国道モニュメント



平成20年3月、一般国道33号砥部道路の四車線化に伴い整備された休憩所。ここは、国道379号との交差点近くに位置し、まさに陶街道の要衝である。南を眺めると、美しい障子山を仰ぎ、裾野には陶工たちの苦難と栄光の歴史を今に伝える砥部川がゆったりと流れ時を刻む。

休憩所三方の壁には、陶街道五十三次が描かれた砥部焼の陶板が配され、ここに来れば二度に砥部町の名所旧跡を知ることが出来る。目の前の国道33号を眺めれば「国道モニュメント」。平成28年には三角交差点あたりにも拡張されて新しいスポットに。道の真ん中がアートになって、砥部焼の里

であることを実感させる。また、休憩所内は陶街道をモチーフにした舗装が施され、ほかにもあずまややベンチが整備されるなど、陶街道の道中憩いの場となっている。

地図 P12 B4

砥部町千足
☎089-962-2323
(砥部町役場)



登窯

(砥部焼観光センター炎の里)

登窯時代を偲ばせる姿



登窯は煙突が目印



陶石

砥部焼の原料の陶石

センターの前に置かれた
砥部焼の原料の陶石

下から洞切の間、灰窯、素焼窯と並ぶ

砥部の窯は初め、土や石で作られていたが、嘉永元年(1848)に肥前と同じようにトンバリ(煉瓦石)で

築かれるようになった。たき上げる登窯が町内にたくさんあったが、今ではガスなどの燃料を使った窯が主流で、まきを使う窯は珍しくなっている。

この登窯は、昭和47年に町内に残るトンバリを集めて築かれた貴重な窯だ。3つの窯が階段状に連なっている。長い間、たかれていなかった

が、約10年ほど前から焼成を再開し、今では春と秋の年2回 陶芸教室で作られた作品や一般の作品を焼成している。たき始めると3日3晩かけて9トンの赤松を使用する。

以前たき口は2つあったが、中の温度を上げるために1つに改良された。窯出しは、急に窯の中の温度を下げて作品を割らないようにと約2週間後に行われる。センターでは、絵付けや手びねりに挑戦できる。

地図 P13 B1

砥部町千足359
☎089-962-2070
🕒8時30分～18時
📅12/31 絵付け500
円税別～📄70台
※スタンプ台は入口横



19～20は2.3km

陶街道の風景を凝縮した作品

松山南高 砥部分校の陶壁画

校舎の側面に飾られた陶壁画は、国道379号からもよく見え、校舎の壁面がキャンパスになっている巨大なアートだ。昭和61年に松山南高

等学校砥部分校が現在地に移転した記念に設置された作品で、それぞれ180枚もの陶板を集めて縦6m、横2.7mにもなる絵を作り上

げている。

デザインは、当時、同校の教師だった矢野徹志さんのもと、在校生から案を募り、絵付けと焼成は町内の窯元が担当した。砥部の山、木、草花、水車、登窯をデザインし、陶郷風景を伸びやかに描き出している。

西側通用門近くには、同校の卒業生で現在窯元を開く陶工たちの技術を結集し

たモユメントが立っている。大下田古墳で出土した子持台付壺にヒントを得たという作品だ。

砥部川の川べりには、生徒がデザインした陶製の椅子が随所に並べられている。

◀砥部川沿いに置かれた陶製の椅子

地図 P13 B1

砥部町岩谷口7
☎089-962-2323
(砥部町役場) 校外からのみ見学可能 ※スタンプ台は校門横



20～21は700m



水車が描かれた左の陶壁

登窯が描かれた右の陶壁



▶創立50周年記念に設置されたモユメント



砥部衝上断層

数千万年前に起こった地殻の中の動きを見る



迫力ある断層の様子



説明板を見ながら学んでみよう

砥部には日本列島を横断する中央構造線が走るが、ここには古い地層が新しい地層の上に重なった珍しい逆断層があり、砥部川によつて洗い出され、露出している。

断層とは大きなひび割れのこと、地殻の中にできた割れ目を境

に、両側の地盤が相対的に動いて食い違っている様子を見ることができる。

この断層は、1200万年前〜4000万年前にかけて起こった地殻運動によつてできたという。地盤の弱い場所から吹き出した熔岩が冷えて固まり、砥石や陶石の地を作った。

砥部川の河床「かがす淵」付近では、岩石が直接地表に露出して、砥部川を直角に横切るように断層が見える。河床に落差があり、水が流れている付近が最も断層が見られるところ。この露頭は、大正10年に当時の九州

地図 P13 B2

砥部町岩谷口450・大南1891先
☎089-962-2323
(砥部町役場) ⑦7台
(大型2台) ※スタンプ台は木のつり橋を渡った看板横



木のつり橋を渡って対岸へ

帝大工学部教授であった河村幹雄博士によつて発見され、昭和13年に国の天然記念物に指定された。地質学上、貴重なため、日本全国から多くの人が訪れている。

一帯はあずまややベンチなどがあり、公園として整備されているのでゆったり過ごせる。



21〜22は1.0 km

お告げが復元を実現させた薬師堂 岩谷霊岩寺の厨子と 須弥壇

正保2年(1645)に浄土宗の末寺として開山された寺で、「岩谷さん」と呼ばれて親しまれている。門をくぐると正面に構える薬師堂の中に、昭和39年

に県の文化財に指定された厨子と須弥壇がある。厨子は薬師如来が安置されている屋根付きの両扉のついたもので、高さは279cm。柱にはヤリガンナの跡が残っている。

須弥壇は厨子の下を支えている台で、高さは90cm。

厨子内の薬師如来が安置されたのは、享保元年(1716)のこと。庄内(山形)の僧が、霊夢を見て、霊

岩寺に来て建立した。85年後、盛大な開帳法要が行われたが、その後、薬師如来は秘仏であるとし

百数十年間、開帳されなかったが、大正14年に当時の和尚が迷信を一新し、扉を開けると、長年風雨にさらされた堂や如来は損傷が激しかった。

数年後、東京から篠崎将次という人物が参詣し、彼が夢に見た地藏菩薩の「伊予霊岩寺の薬師如来を修復すべし」という夢告によって、大修復が実現した。



薬師堂内にある厨子と須弥壇



裏山にはハイキングコースに最適のミニ四国がある

地図 P13 C2

砥部町岩谷182
☎089-962-6769
●9時～17時(電話で事前に確認してから見学可能) ●20台
※スタンプ台は正面横



22～23は1.4km

四季折々の天然溪谷美がみられる景勝地 仙波溪谷

広田の中央を走る玉谷川の流れが作り出した溪谷。

清流が流れる溪谷には、

春に山椿、初夏にアジサイや石斛が咲き、秋に紅葉が点々と岩肌を飾っている。岩と水と植物の織りなす自

然美に心も洗われるようだ。途中の休憩所や、峡乃橋からはゆつくりと溪谷美を眺めることができる。

仙波溪谷には昔、仙人や天狗がいたという伝説があり、庄屋城戸三郎右衛門がここで「天狗の羽がい」を切り落としたという話が残る。

またここにいた龍を、鉄砲の上手な男がしとめ、仲の良かった権現山の龍が人間を呪い病気を流行らせたという話など、いくつもの民話が残っている。



新緑の中で豪快に流れる川



500mの遊歩道が続く



雪景色もまた美しい

地図 P16 C1

砥部町総津 1777
☎ 089-969-2111
(砥部町広田支所)
※スタンプ台は散策
路途中の休憩所内



23～24は15.2km

神の森大橋

赤銅色に輝く木造橋とやすらぎの清流



▲最新技術を結集して造られた

平成6年5月に完成したアーチ橋は、二等橋の中では日本で最初の造られた木造の車道橋だ。重量20トンまでの自動車が行き来可能だという。379号沿いにありひとき

▲橋の下の清らかな流れる玉谷川

わ目をひく特徴ある橋だ。広田地域の基幹産業が林業であり、橋の主要部には地元で産出したスギの断面集成材を使用した。アーチ部分は雨水から保護する銅板で覆われている。橋の全長26.36m、アーチの支間23m、幅5m。平成7年度には手づくり

地図 P16 B1

砥部町総津1786先
☎089-969-2111
(広田支所) 可
※スタンプ台は神の森大橋の前



24 ~ 25 は300m

郷土賞(歴史・文化部門)を受賞し、一帯の神の森公園のシンボリック存在となっている。山の緑に囲まれた景色と、橋の下の遊歩道に下りて清流のほとりを散策したい。清流とホテルの里らしい遊歩道のモニュメント





陶芸舎の外観



地域の特産加工品を作るふるさと生活館



陶街道名物たらいうどん

陶街道
五十三次

二十六

自然の中で創作に励む人々 陶芸舎と ふるさと生活館

砥部焼の原料となる陶石は、広田地域から産出している。そんな地域資源を生かして、昭和61年に陶芸舎を造り、中田窯の中田正隆さんを招いて、焼き物の里つ

くりで地域の活性化を試みた。国道379号沿いに陶芸舎をはじめ、地域内に全部で5軒の窯元がある。ふるさと生活館は、地域の人々が集まって商品を作

る加工場として利用されている。加工品は、うどんだしや、麦はたい粉を使ったパウンドケーキ、フキのつくだ煮、よもぎを使った餅などで、地元でとれた素材を生かしており、加工した商品は峡の館などで販売している。

ふるさと生活館の隣、農村食堂こぶしの家では、名物のたらいうどんが味わえる。

地図 P16 B2

- 【陶芸舎(中田窯)】…砥部町総津159-2 ☎089-969-2077 ☎9時～16時(営業時間内見学可) 📅日曜・祝日、第2・4土曜それに続く月曜
〈つもる窯〉…砥部町総津95-1 ☎089-969-2007
☎8時30分～17時(事前に連絡して見学可能) 📅不定休
〈海窯〉…砥部町総津95-1 ☎089-969-2963 ☎9時～16時(事前に連絡して見学可能) 📅不定休
〈土筆窯〉…砥部町総津1798 ☎089-969-2590
☎9時～17時(事前に連絡して見学可能) 📅火曜
〈土造窯〉…砥部町総津1798 ☎089-969-2048
☎8時～17時(事前に連絡して見学可能) 📅不定休
【ふるさと生活館】…砥部町総津159-1 ☎089-969-2111(広田支所)
📅30台 ※スタンプ台は陶芸舎の入口横



25～26は300m

ひと休みして自然の恵みを手に入れよう 道の駅ひろた 「峡の館」



木造の立派なやぐらが目印

国道379号沿い、やぐらがそびえ立つ「峡の館」は、平成6年に帯の施設とともに道の駅として認定された。

も人気だ。広田地域の窯元が作った砥部焼も販売し、器やユニークな焼き物の人形がそろつ。駐車場のそばにある神藤橋は、玉谷川に架かる木造の吊り橋で長さ約30m。大自然を満喫できる。橋を渡り整備された坂道をあがると、ちびっこ列車「ひろたん



▲うれしい価格の特産品がずらりと並び

日本古来のこんにゃく芋を使って作られるこんにゃく、おいしい空気の中で栽培される乾シイタケ、地元のそば粉をふんだんに使うそばなど



号」が子供たちを楽しませてくれる(乗車無料)運行時間(確認)。



▲地元のグループが作る手作り菓子

▲恵まれた地形で自然に近い形で栽培される自然薯は、味・風味・粘りが自慢

地図 P16 B2

砥部町総津162-1
☎089-969-2070
🕒4月～10月 8時～18時、11月～3月 8時～17時 🕒12/31～1/3 🅇60台 ※スタンプ台は峡の館入口横



26～27は300m

山村留学センター

自然の中で子どもたちの声がこだまする
さんそんりゆうがく



山に囲まれた寄宿舎。県外からの留学生もいる



山間に建つ高市小学校の校舎

白い壁面に八角形の赤い屋根が映える建物は、県内外の小学生が1年間を原則に親元を離れ、仲間と生活をともにする山村留学センターだ。留学生たちは、稲刈りやイモ掘りなど都会では味わえない体験をする中で成長し、地元の子どもたちも新しい仲間から刺

激を受け成長する。平成4年度から始められた山村留学は25年を超える歳月を重ね、自然の中で心が和んだという多くの留学生が巣立っている。

山村留学センターの奥に、立派な松の木を構える邸宅がある。旧庄屋で、俳人として活躍した土居不可止の家だ。

不可止は、広田地域の各地を句に詠んだ。土居家には蔵の近くにある松を、龍のうろこにみせて詠まれた句碑がある。高市橋や谷の橋のたもとにも彼の句碑が建てられている。



仙龍荘と呼ばれる土居家。庭の飛び石には白を使っている

※冬季、積雪や路面の凍結などで長曽池キャンプ場への通行が困難な場合は、28山村留学センター入り口にある「土居不可止生家」スタンプを押印してください。



27～28は8.4km



木造2階建、165㎡の面積を持つ主屋

明治5年創業の造り酒屋。主屋と煉瓦煙突が歴史的景観に寄与しているとして、平成16年3月に国の有形文化財に登録された。

明治41年ごろに建てられた主屋は、真壁にして柱を見せ、出格子とともに建物に引き締まった印象を与えている。明治後期に造られた煉瓦煙突は、主屋南西にある醸造蔵の南にそびえ立つ。地上から20mも伸びており、特徴的な柱頭飾り風の頂部を持つ。約10年前まで米を蒸すために、石炭や重油を燃やしていた。

陶街道
五十三次

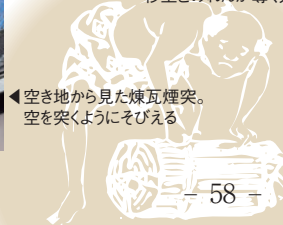
二十九

歴史ある建物が郷土の景観を守る

佐々木酒造の主屋と煉瓦煙突



杉玉とのれんが導く入口



◀ 空き地から見た煉瓦煙突。
空を突くようにそびえる

江戸時代末期に建てられたという歴史ある醸造蔵は、現在でも酒の製造や貯蔵に使われている。

地図 P16 B3

砥部町総津 785

☎ 089-969-2005

🕒 不定 🏠 不定休

🅐 2台 ※スタンプ

台は玄関横



28～29 は6.9 km



広田地域の中心にある広田支所



昭和30年2月に建てられた
渡邊成壽翁頌徳碑

旧広田支所横には、
渡邊成壽（1873～
1932年）の頌徳碑が立っ
ている。成壽は、明治6年玉
谷村に生まれ、20歳のとき
に広田村学務委員に就任。
明治41年には村長に選任さ
れ、以来12年にわたって広田
村の行政に携わり、村の開発
に大きく貢献した人物であ
る。

農林業資源の流通のため、
道路の整備・開発の必要
性を提唱し、明治45年村道
改修に着手した。工事は難
行を極めたが、約8年の歳
月をかけ大正7年に大事業
を完成した。偉業を成し遂
げた成壽は、「村道の父」と
呼ばれる。

造林事業や畜産を奨励
するなど、産業面においても
尽力した。



29～30は500m

陶街道
五十三次

三十一

旧広田支所

「旧広田村育ての親」ともいわれる渡邊成壽

地図 P16 B3

砥部町総津385

☎089-969-2111

🅐20台 ※スタン

プ台は玄関前



陶街道
五十三次

三十一

長曽池キャンプ場

開放的なキャンプ場でのんびり過ごす

じょう

くねくねとした山道を
登った標高520mのところ

に、周囲約600mの長曽池
がある。その周辺には、キャン
プ場が整備

されている。

長曽池は、
昭和8年に
農業用水池
として作られ
たもので、現
在も周辺の
田畑のため
に使われてい
る。深さは最
深11mあり、
鯉や金魚、草
魚が優雅に
泳いでいる。
昭和51年
にキャンプ場
が開設され、一年を通して利
用することができる。無料で
使えるテントサイトと炊飯
場があり、自然の中でキャン
プが楽しめる。特に夏のキャ



長曽池のほとりには桜や菖蒲が咲く

昭和51年
にキャンプ場



自然の中で家族でリフレッシュ

ンプシーズンは、カラフルなテン
トがはりめぐらされ家族連
れでにぎわう。

地図 P16 B2

砥部町総津1485
☎ 089-962-2323
(砥部町役場)
利用時間／自由
釣り(大人1000円、子ども
500円)、☎ 水利組合 ☎ 089-
969-2713 ♪ 20台 ※スタ
ンプ台は手前駐車場付近



30～31は4.3km

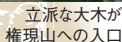
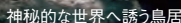
緑に包まれた神秘的な山

の奥が登山道の入口になっていて、ここから頂上へは片道20〜30分でたどり着く。登山道には、せり割り、一の鎖、二の鎖、三の鎖などの難所があり、山頂には、神仏二体神

の蔵王権現社が祭られる。
権現山は、3つの山嶽がそ
びえ立つ連岳峰で、3つの鎖
があるところまで石鎧山いしよろいさんそ
くりであるところから、小型
石鎧、広田石鎧、伊予の西石

の蔵王権現社が祭られる

砥部町総津
☎ 089-969-2111
(砥部町広田支所)
※スタンプ台は権現
山入口横



地方信者をはじめ、山伏^{さんぶし}、修験者^{しゆげんしや}たちに親しまれてきた山岳信仰の山だ。

豊峯神社から、50mほど急斜面を登ると、滝垢離^{たきご}の行場としてあがめられる白糸の滝が現れる。山岳の奥

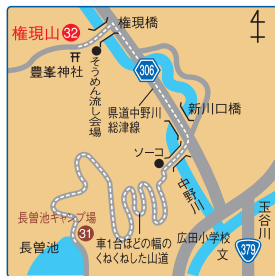
深くから湧き出した溪流は、滝となって落下する。滝口には水蝕^{スイシツ}・蹠穴^{シツケツ}の奇岩があり、「お宝のつぼ」とも呼ばれる。

広田の清流を生かしたそうめん流しは、7〜8月にかけて行われ、涼味を満喫するスポーツになっている。

 そうめん流し

深くから湧き出た溪流は、滝となつて落下する。滝口にすいしょくおけつは水触甌穴の奇岩があり、「お宝のつば」とも呼ばれる。

広田の清流を生か



31 ~ 32 は 3.8 km

陶街道
五十三次

三十三

農村工芸体験館

自然の中で陶芸にチャレンジ
のうそんなうげいたいけんかん

地元の木をふんだんに使った十二角形の印象的な建物に入ると、1階から2階までの吹き抜けが広がり、樹齢170年はある大きな杉の柱がそびえ立つ。1階には体験室が2つあり、手びねりやろくろを使った成形と絵付けが体験できる。カラフルな15色の絵付けができるのが魅力だ。初めての人でも丁寧に指導してくれるので、安心して取り組める。

2階の多目的ホールは、ギャラリーとして利用されており、土筆窯の作品を展示販売している。

体験館そばにある全長140mのローラーすべり台は、体験館ですべり台マット（1枚100円）を購入して利用できる。

地図 P16 B2

砥部町総津 117

☎089-969-5087

☎9時～17時 休火

曜 絵付け700円～

🅑20台 ※スタンプ台は入口



木のぬくもりが感じられる館内



土筆窯の作品



体験館上にある宿泊施設「ひろたの森」には、カフェ&バー併設



赤いとんがり帽子が目印



32～33は2.5km

上尾陶石

焼き物はここから生まれる
う え び と う せ き

砥部焼の原料が採掘されているのが上尾陶石だ。上尾トンネルを南に過ぎると、すぐ右手、伊予鉱業所の広大な敷地内に、黄褐色を帯びた石の山が出現する。昔はこ

こが切羽（採掘する山）だったが、今は南に移動し、この場所では選別作業が行われている。
クラッシャーではさみつけて割り、大きさと色の違いに

よってコンベアーに乗せ、分けられていく。色の選別は全て手作業で行うというが、鉄分を含んでいる茶色の陶石より、鉄分の含有量が少ない白色の陶石が上等品として扱われる。大きい石は色の識別をする際、手間がかからないことから、重宝されるようだ。石の品質管理も怠りなく、砥部の窯業試験場に送って定期的に成分検査を行っているという。

上尾陶石で採掘された原料は、砥部焼協同組合と砥部陶



5cm以下の陶石を集めた山



一級品の白い陶石



大きさと色で識別する選別場

磁器原料の製土工場に運ばれ、町内で作られるほとんどの焼き物に使われている。上尾峠での採掘は、上尾陶石で伊予鉱業所が行っている。

地図 P11 B1

砥部町玉谷1685
☎089-969-2050
(伊予鉱業所)
※スタンプ台は事務所横の倉庫軒下



33～34は6.2km